

整枝・剪定の前に

ももの経済樹齢は15年前後と見られております。15年生を過ぎたら、
改植・新植により、園地の若返りを図っていただくようお願いします。

収量の目標

果実重によって異なりますが、昨年の果実肥大・収量を振り返り、今年の剪定の参考としましょう。

定植3～4年で1樹当たり100個	10a当たり500kg
定植5～7年で1樹当たり200～300個	10a当たり1000～1800kg
定植8年以降で1樹当たり400個	10a当たり2000kg

剪定の基本3原則

- ① 日が当たりやすい
- ② 薬剤がかかりやすい
- ③ 作業がやりやすい

ももの整枝・剪定で特に注意する事項（凍害対策も含む）

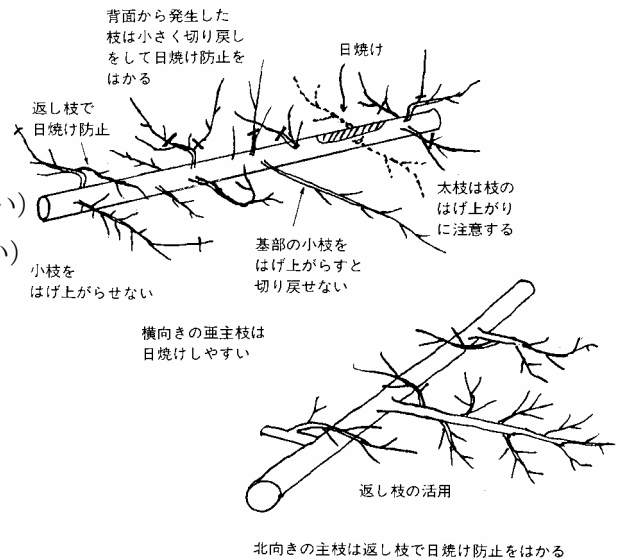
- ① 下部（基部）優勢
- ② 定植から2年間は、剪定量を少なくする（主枝の方向付けのみ）
- ③ 若木ほど弱剪定 若木の秋季剪定は行なわない（貯蔵養分確保）
- ④ 切り口には、必ず塗布剤（トップジンMペースト等）を塗る
- ⑤ 先刈りはやらない方が自然な仕立てとなる
- ⑥ ベンチカット（主枝方向の無理矢理な変更）は極力行なわない

1、整枝せん定の進め方

- ・園全体の把握 ⇒ 整枝 ⇒ せん定
- ・まず園全体を観察し、どのように進めるか方針を決める（混み合っている場合は間伐や縮伐が優先）
- ・次に樹勢や枝の配置等を観察し、栽植されている樹の状況を把握する。
- ・最後に前年の生育や管理状況を振り返り、品種・樹齢に応じたせん定を考える。

2、樹の特性

- ・樹の生育が旺盛で、樹冠の拡大が早い。（若木時代の管理が樹形に大きく影響）
- ・結果期に入ると枝が下垂し、樹姿は開張しやすい。
- ・頂部優勢が崩れやすい。（特に若木時代は顕著である）
- ・日照要求量が高く、日当たりが悪いと枝の充実が悪くなる。
- ・傷口の癒合が悪く、枯れ込みが入りやすい。
- ・太枝は日焼けになりやすい。（直径 10 cm を超えるとなりやすい）
- ・ネクタリンは直立性強い品種が多い。（花芽がとぶものも多い）



3、整枝せん定の基本と注意点

- ・栽培管理が（一般管理、薬剤散布）が効率的にできる樹形とする。
- ・各枝は均衡のとれた樹冠を構成し丈夫な骨格を作っていること。（主枝⇒亜主枝⇒側枝⇒結果枝）
- ・せん定だけで解決しないで各枝の誘引や吊り上げ作業を行い目標樹形に近づける。
- ・川の流れがスムーズにいくように（ベンチカットはしない）
- ・間引きせん定主体。樹勢により切り返しや先刈りを行い、更新を図る。
- ・枝は全て葉型になるように（先端小さく、中間部大きく）
- ・結果枝を早く作る（「くの字」に曲がる枝へ着果できるように）

図14 太枝の日焼け防止

4、防寒対策

- ・若木を中心に胴枯れや寒害が増えているので、主幹部に白塗剤の塗布やワラ巻きを行う。
- ・大きな切り口にはトップジンMペースト等の癒合剤を塗布する。
- ・太枝は秋季か春季にせん除するのが理想。（枯れ込み防止）

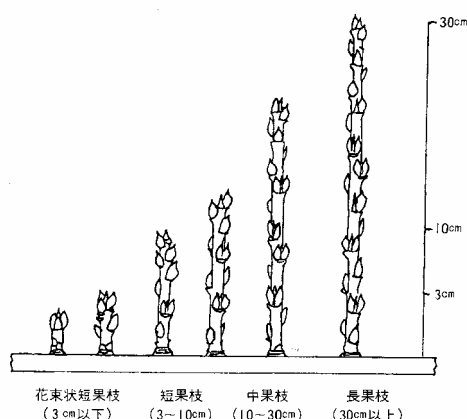


図1 結果枝の種類

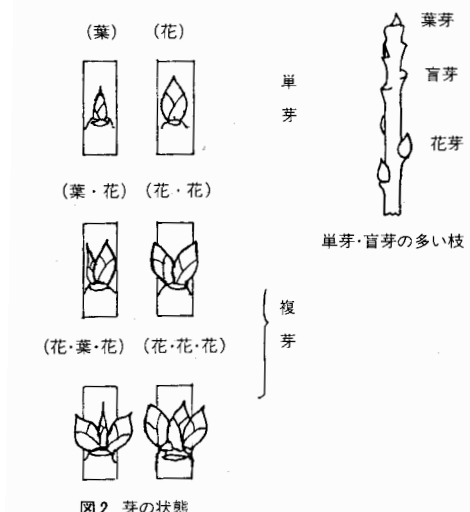


図2 芽の状態

平面図

側面図

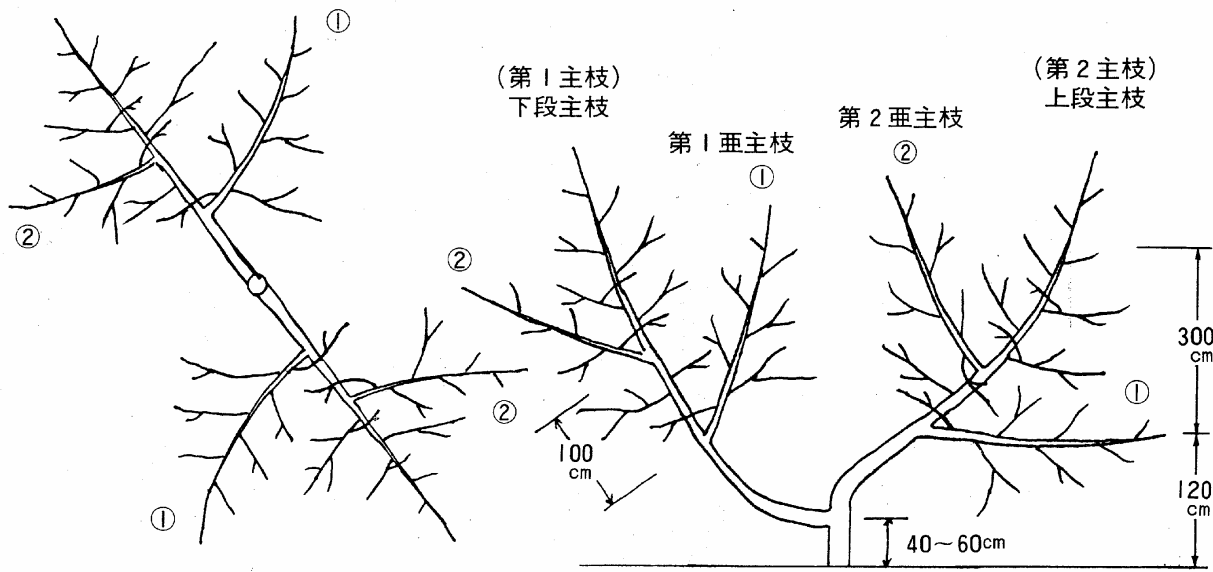


図3 開心自然形仕立ての目標樹形

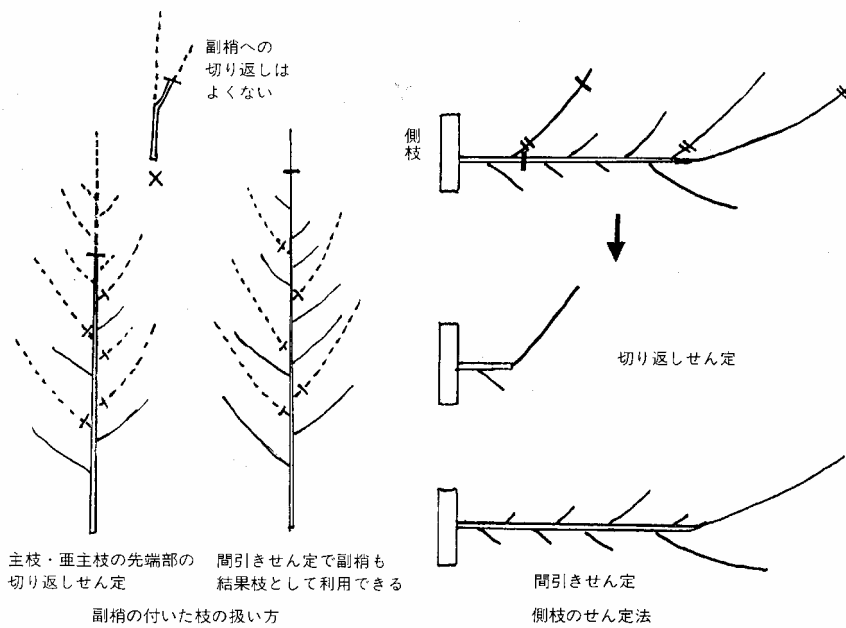


図13 切り返しせん定と間引きせん定

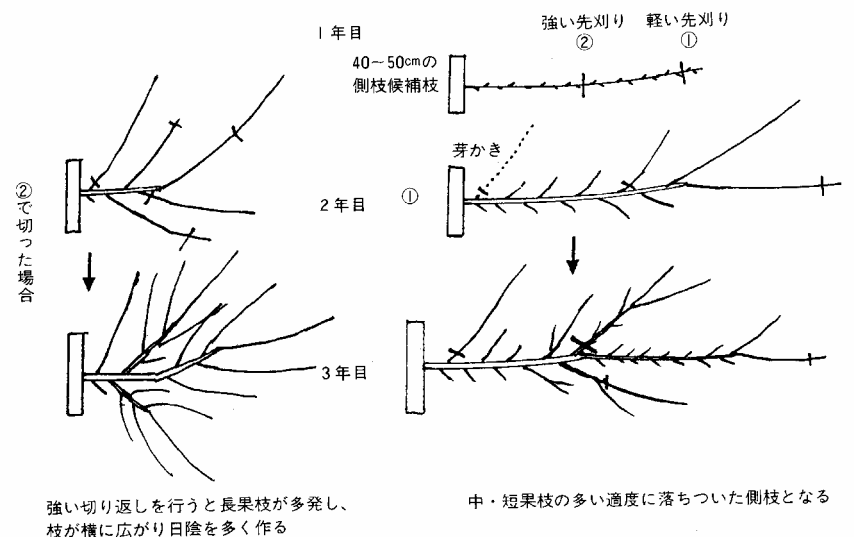


図15 側枝の作り方